

学校だより

在マレーシア日本国大使館附属・
クアラルンプール日本人会日本人学校
第8号(平成27年11月26日発行)
URL : <http://www.jskl.edu.my>

校長 宮谷 真一郎

師 走

年の瀬を来月に控え、保護者の皆様におかれましては、その準備にと、気忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。お陰様で、平成27年の教育活動も後一月となりました。そんな中、改めて今年を振り返ってみますと、刻々と変化する当地を取り巻く状況には、著しいものがありました。殊に安全面においては様々に苦慮するところがあり、その不安は未だ解消されていません。しかしながら、子どもたちが日々健やかに成長できたのは、大使館、日本人会を始めとした関係各位の厚い御支援のもと、各家庭の御理解、御協力のお陰であります。本紙において、深く感謝を申し上げます。

このようになかなか不安が解消されない中でも、ときは刻々と進んでいます。日本では季節も移り変わり、普段、大らかに構えている師ですらも走り回るほど忙しい「師走」を迎えます。子どもたちのみならず、我々大人も一年を総括する月が来たようです。

ところで、マレーシアの方々には遠く及ばないかもしれませんが、日本人も豊かな自然の中で生きてきました。その日本人の世界観をしたためたものの一つに、平安文学の「枕草子」という随筆があります。とても素敵な文学で、宮中生活を通して描かれる当時の日本人の世界観が見事に表現されている、と子どもたちと共に学んできました。殊に、私は第一段が好きで、子どもたちと授業中によく語り合いました。ただ、いつも授業のおしまいには「冬」の段の不可解さが際立ち、子どもたちと楽しく学んだことを思い出します。

「春はあけぼの、夏は夜、秋は夕暮れ。それぞれの時間帯に日本の自然のよさが十分に感じられる文章だよ。ただ、冬は今ひとつ捉えづらいよね。「つとめて」も早朝という意味らしいけど、今では耳慣れない言葉だよ。」「つとめて」は「勤めて」なんだろうけど、なぜこの言葉を用いるのだろうね」と。冬の段の読みとりと併せて「つとめて」の根源について語り合ったものでした。

日本人は季節の移り変わりを「困難」にではなく、「豊かさ」に着目して上手く人生に取り込んできました。そして、その豊かさは自然の恵みによるものであるとして、大切にその恵みを享受して暮らしてきました。「自然は支配するものではなく、人間自体も自然の一部である。自然のあるがままを受け止めて、日々の営みに生かすことに、豊かに暮らすことに美しさが宿る」ということを、この平安文学は語っている気がします。

自然が豊かな国、マレーシア。人々が、その自然を柔らかく受け止めているこの国で暮らしてみ、私自身、今、幸せにいられることについて考えてみたいと思います。皆さんも、改めて「自然と共に生きることの素晴らしさ」について、忙しい「師走」だからこそ、心にゆとりを持ち考えてみてはいかがでしょうか。

12月の行事予定

1日(火) ～ 4日(金) 5日(土)	個人面談 早稲田渋谷シンガポール校入試 (本校会場) クロスカントリー大会 日本人会バレーボール大会 (本校会場)	20日(日) ～ 22日(火)	カンポンホームステイ * 始業式は1月6日です。
6日(日) 8日(火) 10日(木) 11日(金) 18日(金)	小 体育朝会 幼 親子遠足 スルタンバースデー(祝日) 終業式		